

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らし暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくあげている	『心やさしく おだやかに のんびりと 自分らしく』	基本方針の中で「尊厳・安心安全に暮らすホームと家族、地域との触れ合いを大切にします」が掲げられている。この事が理念を支えるものだと思う
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送り後に、理念と基本方針の唱和を行っている。	○ 理念を常に念頭に入れ入居者の対応に努めていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月発行する「ウイングたより」に理念を載せている。 ・玄関やフロアの目につく場所に理念を掲げ、来園者にもアピールしている。	地域密着になるには、まだまだ時間を要する事だと思いますが、今まで通り施設行事の招待を続けながら施設のアピールを行い、理解を得ていきたいと思っています。そうすることが理念の実践に結びつくと考えています。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所へ入居者と一緒に散歩・買い物に出掛けたり 夏祭りで地域の方々を招待している。 近所の方から、食材を頂いたりすることがある。	○ 今後も、隣近所の人との付き合いを密に行い親睦を深めていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	子ども会の廃品回収に新聞やダンボールを出したり 夏祭りに地域の方々を招待している。 地域の工芸・手芸教室に参加させて頂いていた。	○ 地域の活動に出来る限り参加を行い、今後も継続して行きたい。

グループホーム ウイング

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議にて、ホームでできないか情報収集に努めている。		今年はまだ、地域の方を夏祭りしか招待できていない為後は、他の行事にも参加していただけるようにしたい。
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を基に、個々の反省文を提出してもらい、改善策を話し合い取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H19年より2～3月に1回運営推進鍵を行い、活動報告・意見交換を行っている。	○	頂いた情報については、行動におこし実施している。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護認定の申請手続きの為窓口に行って、参考資料などがあれば頂いている。 地域包括支援センターからの問合せに、状況を伝えている。		運営推進会議に出席して頂く他にも情報報告を行おうと図って行きたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、資料をレポートと一緒に提出してもらい、休憩室等で閲覧できるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待などの新聞記事を切り抜き、全職員に回覧してもらい、会議等でも話をし自分の介護を振り返る機会を作っている。	○	入居者が安心・安全に暮らせる様に、外部の研修に参加し、スタッフの教育と質の向上に努めたい。

グループホーム ウイング

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族、利用者、と話し合う時間をとって、不安の解消に努めている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・常に利用者の意見に耳を傾け、苦情、不満があった場合は全職員で話し合いを行い対応している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月の請求書に1ヶ月の状況報告を載せたり 面会時や電話連絡でその都度報告している。 ・金銭管理に関しては、1ヶ月ごとにサインをいただき領収書の返却をしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・相談、苦情受けの窓口を、重要事項説明書とホーム玄関に掲示している。 ・苦情、不満があった場合は、全職員で話し合い対応している。	○	健康状態・日常的变化・病院受診の報告については、今まで通り行っていきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月全体会議とフロア会議を実施し、職員の提案や意見を聞いている。		日常的にも意見や提案を聞きながら経営者と管理者は常に施設にとって良い方向に反映させている。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・病院受診や業務に合わせて、勤務調整を行っている。		入居者の状態・状況に応じて、職員が半日受診もあるが、各フロアーのチームワークにて業務に当たっている。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・管理職はほぼ固定されており 他の職員に関しては、個々の個性に応じて1年を目安に異動を行っている。		

グループホーム ウイング

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	面接に関しては、希望があれば全員対応しており、経験や趣味を生かして働いていただけるよう尊重している。		
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修に参加させたり、参考資料を休憩室においてる。	○	ケアで疑問になったり、研修で疑問に思った事にかんしては常に話し合いを持ち解決に導いている。
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加、新人研修の参加と段階に応じて行っている。	○	職員の退職、求人を出しても応募がなく、研修に行かせたくてもなかなか行けないのが現状な為職員が落ちついたら参加して行きたいと思います。
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の勉強会や交流会に参加し、意見交換を行っている。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は研修に参加しており、職員の体調や精神的变化に応じて話を聞いたり、気分転換のためフロアの移動などを検討している。	○	食事会やレクレーションを行い気分転換とさせて行きたい。
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている	施設のために頑張っている方には、ねぎらいの言葉をかけている。	○	今後も実績のある方には、昇給等により認めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談の様式を変更し、見学時や面談時に本人や家族から状況の聞き取りを行うようにしている。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>問合せの際や面談時に話を聞く様にしている。 本人の前で話せない事などは、席を変えて話を聞く様にしている。</p>	<p>○ 相手が話しやすい環境作り、話術に今後も努めていく。</p>
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>問合せや面談の時点で、体験入所を含めたお話しをしている。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>まずは見学をしてもらい、ホームの雰囲気味わってもらっている。体験入所をして頂きお互い可能かどうかの判断を行っている。</p>	<p>○ 入居後にも家族や入居者が不安を抱かれないように密に連絡を行っている。</p>
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の能力に応じて、出来る事は一緒に行いながら、会話や表情を見て一緒に笑ったり、喜んだりしている。</p>	<p>○ 現在の取り組みを行い更に「入居者の思い」を知り努力をしていきたい。</p>

グループホーム ウイング

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	外出や面会をお願いしたり 受診に関しても出来るだけ家族の付き添いをお願いしている。	○	出来るだけホームに足を運んで頂けるように連絡を取り合い情報の共有を今後も行っていきたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	・本人や家族から話を聞いて情報収集に努め、連絡の取りにくい家族に対しては、FAXやお便りを送って関係維持に努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう 支援に努めている	・ご家族に協力していただきながら、関係維持に努めている。	○	希望があれば馴染みのある場所へ連れて行ってあげたらと思っている。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるよう努めている	個々の性格や症状に合わせて、席替えや居室移動を行っている。必要に応じて職員が間に入っている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居先の関係者から連絡があった際に、様子を伺っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・入居時やケアプラン作成時にアセスメント(ヒアリングシート・24時間経過シート)を作成し把握に努めている。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・入居時に本人やご家族に聞き取りを行い、生活歴を記入し、日常の会話の中からも情報を得ている。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>・1日の過ごし方は個人カルテに記入し、心身の状態もありのままその方の言葉を用いて記入するようにしている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・日々起こる問題点を常に念頭に置きフロア会議等で意見交換を行い、計画作成を行うようにしている。</p> <p>・ご家族にも面会時や電話連絡などで情報交換を行い計画書にもサインを頂いている。</p>	<p>○</p> <p>現在、歯科・内科等のかかりつけ医とも相談をし、計画書に意見を取り入れているが、家族からの要望等をもっと引き出して取り込んでいけるようにしたい。</p>
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・入所時は1ヶ月、2回目以降は3ヶ月でサービス担当者会議を開き計画の変更・見直しを行っている。</p> <p>・ADLの低下時や入院等により状態が変化した時は、その都度見直しを行っている。</p>	

グループホーム ウイング

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日ケアプランの項目に沿って評価を行っており出来なかった場合は、理由を記入するようにしている。		個人カルテにも細かく記入し申し送りにて情報の共有をおこなっている。
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・グループホームのみの経営の為多機能性はないが、通院等による付き添いは要望に応じて行っている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・運営推進会議にて地域の方から近隣の情報を教えて頂いている。 消防訓練時は実際に消防の方に連絡をし訓練に取り組んでいる。	○	もっと、地域資源を知り活用していきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・週3回透析に行かれている方があり入居前は話し合いをおこなったり現在も通院時は情報交換を行っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進会議への参加依頼や、入居の問合せ等で連絡を取っている。	○	今後も運営推進会議や電話連絡等により交流を深め、支援を必要としている人の為に協力していきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居時にかかりつけ医がある場合は、病状に合わせて受診を行えるようにホームのかかりつけ医からも紹介状を書いて頂き連携をとって頂いている。		

グループホーム ウイング

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり利用者や認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の症状に関しては専門医を紹介して頂き、状況によって通院や入院治療を行ってもらっている。	○	現在、認知症専門医の研修にも参加しているが、もっと認知症の進行に関して、相談する機会を作り入居者・家族・職員が安心して生活・支援が出来るようにしていきたい。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・2週間に1回の往診時の看護師は決まっておらず、バイタル測定やその人に合った声かけをしてもらっている。	○	訪問看護の導入を検討しているが、実現には至っていない為、今後も実現に向けて取り組んでいきたい。
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院した際は面会に行き状態の把握に努めている。退院時医師との話し合いも家族了解の元同席したりしている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・今回1名の方の看取りを行った。Dr、本人、スタッフと話し合いを行い少しでも安心できるように努めてきた。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・グループホームでは、医療的面に関して限界があり、かかりつけ医・家族・本人とも話し合い個人のレベルにあった施設への転居を探そうとしている。	○	本人・家族の意向に添えるようかかりつけ医等と相談しながら検討していきたい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住する際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・転居先の関係者と連絡を取り合い、サマリーなどで情報の共有に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・声かけは出来るだけ本人の傍に近づき、ゆっくりとした口調で話しかけ大声など出さないように配慮している。</p> <p>・記録物は、傍を離れる時は裏返したり 見えないような配慮が必要。</p>	<p>職員同士気付く事があればその都度その場で注意しあっている。</p>
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>・特にリハビリ 体操などはその必要性を十分納得いくまで説明を行うようにしている。(その日の体調なども考慮する)</p> <p>・本人から訴えがあったときは、話を聞き一緒に解決法を探り 支援するようにしている。</p>	<p>わかりやすい言葉かけ 説明をおこない、本人の出来る事を大切にしたい。</p>
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・出来る範囲で希望に添うようにしているが全員の方の希望に添っていく事は難しい</p>	<p>職員が入居者個人の生活習慣を把握するように努め、どうすれば希望に沿った支援が出来るのか日々話し合いをしなければならない。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>・入浴準備時に出来る方には自分で洋服を選んで頂くようにしている。</p> <p>・2ヶ月に1回訪問理容室を利用しており本人の希望に合わせてカットして頂いている。</p>	<p>男性入居者は髭剃り・女性入居者はお肌のお手入れなど毎日支援している。</p>
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・食後のお盆拭きなどは毎日の日課となり交替でお手伝いしてもらっているが、食事の準備などは出来る方が少なく職員で行っている。時々手作りお菓子を作る事がありその時は入居者と一緒に作って楽しんで頂いている。</p>	
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>・行事のときなどはお酒・ジュースを提供しており、コーヒー・紅茶などはほぼ毎日提供している。</p>	

グループホーム ウイング

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別に排泄表を作成し排泄パターンの把握を行いトイレ誘導をしている。		感染症などの病気の恐さも説明しパット内での排尿を出来るだけ減らしていくように働きかけを行っている。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・時間帯などはきまっているが、入浴の順番や入浴スタイル(洗い方・入り方・着替え方)などは本人の希望に沿うようにしている		夕方～夜にかけての入浴の実施を試みたが、なかなか職員の人数の確保が出来ず行えてはいないため、今後再度検討していきたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・1日のサイクルの中で休息や安眠が出来るようにベッドへ誘導したり環境を整えたりしている。 特に申し送り昨夜不眠・浅眠だった方には注意し、昼寝などを促し休息の時間が取れるようにしている。		日中ベッド臥床をされない方は、ソファにて両足挙上して頂き過ごして頂いている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の興味のあるものを把握して話をしたり個人に合わせたレク(音楽鑑賞・塗り絵・散歩・読書)の提供を行っている。		同じ事の繰り返しではつまらない為時々変化をつけたりと内容の幅を広げていきたい
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・入居者個人能力に応じてお金を持って管理している方もいるが、出来ない方はお預かりしている。		お金をお預かりしている方でも一緒に買い物に行った際はレジに並んで支払いをしてもらっている。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・ドライブ、散歩、買い物など天気の良い日などは極力外に出る機会を設けている。		歩行困難な方でも車椅子にて介助し、近くの公園等の外気浴に参加していただいている。 個別の要望には、ご家族の方に相談し外出できるよう協力してもらっている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	季節、行事に合わせた外出を計画している。 (山笠見学、キャナルシティ、大丸デバ地下、ホテル狩り 夏祭り)		ご家族にもご案内を出して、参加を促している。

グループホーム ウイング

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	・事務所にしか電話がないため電話訴えがある時や、Faからの電話がある時は取次ぎを行っている。 ・手紙などが届いた時は代読などを行っている。		入居者が手紙を書く事が少ない為はがきでも季節ごとに送れるように支援していきたい
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・入居者の居室やフロアなど過ごしやすい場所を選んで頂きゆっくりと談話してもらっている。		来訪者には笑顔であいさつを行いお茶などの提供を行っている。また、入居者に応じてコミュニケーションが難しい方には間に入り、日常の様子などをお話している。
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束のマニュアルを作成し、しない取り組みを行っている。		どうしても拘束を行う場合はご家族の了解をもらい、フロア会議でも話し合いを行っている。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関の鍵は日中かけることはなく、居室の鍵も職員側からかけることはない ・職員の人数が少ない時や入居者が出たが危険な場合は短時間鍵をかける事もある		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・入居者全員の所在や行動を把握するように努め、時間ごとの巡視などを行っている。		職員同士の声をかけ合い、入居者の情報を共有に努めている。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・個人のレベルに応じてご家族とも相談しながら物品をおいている。		個人によっては、裁縫道具などは使う時は見守りを行いその後お預かりするなど行っている。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・未然に防ぐように心掛けている。 転倒・・・目配り 誤薬・・・名前・日付声に出し確認 行方不明・・・所在の確認 火災・・・消防訓練		ヒヤリハット事故報告書を作成し、防止策などをその都度話し合っている。

グループホーム ウイング

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・救急救命の講習に職員全員っており、マニュアルも作成している。 ・AED設置を行った。		ホーム内での訓練・研修は行っていないためAEDの使い方を含め再度確認を行ってほしい
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	・年に2回避難訓練を行い入居者にも全員参加して頂いている。		運営推進会議や行事の際に地域の方を招待し交流を深めている
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・個人の状態の変化に伴い、リスクも変化していく為その都度、ご家族と話し合うようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日バイタルチェック、表情・行動などの観察を行い、変化が見られるときはかかりつけ医に相談し指示をもらい、その内容を記録に残し申し送りにて情報の共有を行っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人カルテにお薬の説明書を入れており、職員が把握できるようにしている。 ・わからないお薬は薬局の方に聞いたり、辞書を引いたりして調べている。		特に注意する薬の副作用については、マニュアルを作り職員に配布したりしている。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・排便確認を毎日行い、便秘者には水分補給と適度な運動を促している。 ・決まった時間に便座に座っていただく排便トレーニングも行う必要に応じて腹部マッサージ・ホットパックも行っている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後口腔ケアを促し、必要な方には介助している。 ・夜間は義歯預かりボリデントにつけ洗っている。		週1回歯科往診があり、口腔ケアなど全員して頂いている。

グループホーム ウイング

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に摂取量を記載している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症予防マニュアルがありそれに沿って行っている。 ・うがい・手洗いの徹底 ・月1回検便に実施 ・研修への参加		研修参加者は研修報告を全体会議などで行い職員全員に周知させている。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の洗浄・熱消毒・アルコール消毒 ・食材のチェックも行い、使用する直前まで冷蔵庫保管をおこなっている。		つく置きはせず、残った分は処分している。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関前の花壇には季節ごとにお花を植え替えている。 ・玄関は清潔に保ち、お花を置いたり壁飾りをしたり音楽を流したりしている。		玄関前にはベンチも設置し休憩できるようにしている。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事ごとに壁飾りを行い、変化をつけている。 ・日差しが強い時期はすだれをつけたりカーテンを閉めるなど配慮している。		職員もドタバタ足音を立てて歩かない・大声で話さないなど気をつけている。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・フロア、廊下に何箇所かに分けてソファやテーブル、テレビを設置し空間作りに努めている。		

グループホーム ウイング

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居前に自宅で使われていた家具などを持ち込んでいた だいている。		個別に壁に写真や絵を飾っている方もいる。
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・起床時や掃除時の換気を行っている。 ・居室・フロアに温度計をつけ外との温度差に配慮し空調に頼り過ぎないようにしている。		個別に芳香剤を置いている方もいる。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・フロアや居室の家具の配置を考慮し車椅子の通り道を確保したり歩行する方には、手すりなどつたい歩きが出来るよう配慮している。		手すりなど必要に応じて追加設置している。また個別に居室の床を畳やじゅうたんに変えている方もいる。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・食卓や椅子、トイレ、風呂場、居室前に名札をつけたりカレンダーをいろんなところに張っている ・本人のできることはして頂く様にゆっくりとした声かけ、ヒントを出すなど自立支援を目指している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	・テラス、玄関にベンチなど設置し外気浴を行っている。		天気の良い日などは、テラスなどでおやつをすることを増やしたい

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に 1 回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム ウイング

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように
		数日に1回程度
		たまに
		ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くない
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が
		職員の 2/3くらいが
		職員の 1/3くらいが
		ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の 2/3くらいが
		利用者の 1/3くらいが
		ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の 2/3くらいが
		家族等の 1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・季節ごとの行事を行い、家族・地域の方を招待している。特に夏祭りでは社長をはじめ全職員で、もてなし地域の方々にホームを理解していただくよう頑張っている。
- ・施設車両が、リフト車を含め3台もあるため外出や散歩、ドライブなどの機会が多い。
- ・『心やさしく おだやかに のんびりと 自分らしく』を基本に、入居者様本人のできることを探し自立支援に努めている。